

宛先



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 77

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成26(2014)年6月17日

平成26年度

低平地研究会運営委員会の開催

平成25年度 低平地研究会

特別講演会・活動報告会



4月17日(木)の午前10時30分から佐賀大学工学部6号館2階多目的セミナー室で、低平地研究会運営委員会が開催されました。会議では平成25年度の活動報告、予算に関する説明、平成26年度の活動計画と予算案が議論され、承認されました。

運営委員からは、新たな活動案が示されました。構造物に関わる専門部会の立ち上げ、各部会の活動に含まれる「環境」要素を横断的に繋いだ活動、柔軟かつ大きな研究テーマを掲げること、産官学が研究成果を発表する場を設けることなどです。

さらに産学官の種々の組織から研究会への人材の参画・交流できるような、活発な研究会活動について検討されました。また、このような新しい活動を行うに当たり、従来の専門部会の構成も柔軟に見直すことも提案されました。

会員の皆様におかれましても、低平地月例勉強会などへ話題提供など、積極的なご参加をお待ちしております。



緒方会長の開会挨拶

4月17日(木)の午後1時から本年度の特別講演会

では、名古屋大学減災連携研究センターの野田利弘教授をお招きして、「南海トラフ地震に対する濃尾平野の地盤工学的課題と事例研究～東日本大震災の地盤災害を踏まえて～」と題して



野田利弘 教授

ご講演いただきました。佐賀のような低平地である濃尾平野において、南海トラフ地震によって発生するであろう液状化現象に関して、東日本大震災の事例も交えて説明されました。また、濃尾平野での液状化現象を解析するための、従来の地盤工学的手法とは異なる新しい解析手法が紹介されました。その後の活動報告会では各専門部会長から平成25年度の活動報告ならびに平成26年度の活動計画が説明されました。

地盤専門部会 講演会の共催

6月4日(水)に、中国・上海大学・孫徳安教授に「中国における地盤工学研究の最前線～不飽和土の水分特性と力学挙動およびそのモデリング～」と題してご講演いただき、佐賀大学における地盤工学・地盤環境学の研究室関係者を中心に24名の参加者がありました。不飽和土の特性は、斜面災害の防災対策などにおいて重要な基礎でありながら、土の3相としての空気を土中に有するためにその挙動が極めて複雑となり、なじみの薄いトピックになりがちです。低平地において、気候変動に伴う土砂災害の頻発などが予想される今日では、避けることのできない研究・技術テーマといえ、講演中には活発な質疑応答が交わされました。



低平地研究に関する豆知識 -その14-

天然の水処理施設を利用する

汽水域にはマングローブやヨシなどの植物が繁茂する塩性湿地が形成されます。水の汚濁源である窒素やリンなどはこれらの植物に利用され、水中から除去されます。さらに、これらの植物は餌として動物に取り込まれ、結果、汚濁源は生態系内を移動し、保持されます。複雑に絡み合った「食う・食われる」の関係、つまり食物網が、塩性湿地の持つ天然の水処理施設としての役割を高めているのです。

では、食物網はどのように解き明かすのでしょうか。注目されているのは安定同位体です。これは、生育した環境や餌によって、植物や動物の体内における「異なる中性子数を持つ同一原子の比率（安定同位体比）」が異なることを利用します。たとえば、水中の有機物を無作為に摂食しているエビの仲間について、炭素の安定同位体比を利用して調べてみた研究があります。すると、水中の植物プランクトンよりも、底泥表面に付着した藻類が水中へ巻き上がったものの方が、より速やかにエビに利用されていました。この結果を知らずに底泥表面の藻類を減らすような人的改変を行えば、エビの仲間への悪影響を通じて、水環境の汚濁をもたらしたかもしれません。

絶妙なバランスから成り立つ生物生態系と人間社会がどのように共存していくか。解決策は食物網の中に見つかるのでは、と思っています。（佐賀大学低平地沿岸海域研究センター センター講師 長濱祐美）

低平地研究会活動内容・日程の案内

◆ 水専門部会 勉強会と見学会の開催 ◆

日時：7月11日（金）15:00～17:00（勉強会）

7月12日（土）（見学会）

場所：佐賀大学理工学部6号館1F

知能情報システム学科セミナー室

テーマ：汽水環境に関する勉強会&見学会

講師：鬼倉徳雄教授（九州大学大学院理学研究院）

◆ 経済専門部会 夏期バスツアー ◆

日時：8月3日（日）

テーマ：「筑後川の自然とダムとの関係を探る」

場所：日田市のダムと堰の見学

◆ 地域デザイン専門部会 講演会の共催 ◆

日時：8月3日（日）12:00～17:00

場所：佐賀県鹿島市浜町「呉竹酒造東蔵」

テーマ：グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用

講師：入江正之（早稲田大学教授）

※予定の詳細が決定しましたらメールなどで連絡いたします。

会員 特別会員

動向 錦城護謨株式会社

弊社は、今年で創立78周年を迎えました。これまでに佐賀空港、伊万里、佐賀34号などの地盤改良工事に携わり、また全国でも埋立地、道路、用地造成など軟弱地盤の圧密促進工事で材料・施工のメーカーとして工事に携わってまいりました。プラスチックボードドレーン（PBD）の専門業者として今まで培ってきた技術を活用し社会基盤整備事業に役立つため更なる向上を目指して地域貢献に努めてまいります。



武雄バイパス工事の様子

LTJ ジャーナル Vol. 16、No. 1 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol. 16、No.1 が発行されます。7編の論文が掲載され、会員限定でウェブサイトでの閲覧が可能です。

Title	Authors
DESIGN CRITERIA OF SOIL-FIBER MIXTURES AS A MATERIAL FOR LANDFILL COVER BARRIER SYSTEM	T. Harianto
ON THE NORMALIZED RELATIVE ROUGHNESS FOR SOIL-FIBER REINFORCED POLYMER INTERFACE SHEAR BEHAVIOUR	H. A. Shaia and H.M. Abuel-Naga
MODELING THE INFLUENCE OF RIVER FLOW AND SALINITY INTRUSION IN THE MEKONG RIVER ESTUARY, VIETNAM	D. Q. Tri, N. C. Don, C. Y. Ching and P. K. Mishra
DEVELOPMENT OF AN EVALUATION SYSTEM FOR PARKS IN NEIGHBORHOOD COMMUNITIES - CASE STUDY IN KITAKYUSHU CITY, JAPAN	L. Fan, Y. Konishi, H. Fukahori, W. Gao and Z. Wang
DYNAMIC EVOLVEMENT ASSESSMENT AND FORECAST OF LAND USE BASED ON GEOGRAPHIC INFORMATION SYSTEM	D. Guan, X. Lin, W. Gao, W. Su and K. Hokao
QUANTITATIVE ASSESSMENT OF ECO-ENVIRONMENT VULNERABILITY IN KARST REGION	D. Guan and W. Su
ANALYSIS OF RESIDENTIAL ENVIRONMENT AND ENERGY USE IN RURAL AREAS IN HOT SUMMER AND COLD WINTER REGION OF CHINA- A CASE STUDY OF HANGZHOU	L. Jiang, G. Jian, L. Xiaoyu and L. Minyan

編集後記

平成26年度が始まってまだ3ヶ月ですが、平成26年は約半分が過ぎました。今年はISLT2014が開催されますし、ただしく一年が過ぎてしまいそうです。

編集担当：三島、江頭、日野（佐大：sk9822@cc.saga-u.ac.jp）